

# 生活介護事業所 奏楽

## 令和5年度 事業報告書

### 《令和5年度の経過と評価》

開所当初から、一貫して、『みんなで笑顔あふれる職場をつくろう！』をテーマとして掲げてきた。利用者一人ひとりが、よりよく生きること（生きがい・達成感）、生活の質（QOL）の向上を目指した。そのための手段として日中活動種目（生産活動・余暇活動）を設定している。生産活動では、どんなに重い障害を持った方でも参加できるように一人ひとりの能力に応じて工程の細分化に努めた。『出来ること』が増えたことにより、職員や仲間から認め、褒めてもらえるような機会を作り、やりがいや能力の向上に務めた。新たな可能性の追求、ステップアップ、本人の希望も考慮して、ジョブローテーションを行った。また、班以外の利用者を受け入れることによって支援の幅を広げる事が出来た。職員間の情報共有については、利用者を送り出した後に毎日の振り返りを行い、良かった点、課題点を出し合った。送迎などで参加できない職員のためにメーリングリストを通して全職員で共有するように努めた。一方で、振り返りで提供された情報が支援記録に反映されていなかったり、メールでは割愛されたり、深掘りしたほうが良いこともそのままスルーしてしまったりと昨年度からの課題を引き継いでしまった。毎月の班会議、支援会議、職員会議等を通して、『皆が笑顔で主役になれる』ためにはどのような支援をする必要があるかを考える機会を設けた。しかし、内容が盛り沢山で、深掘りが不十分な面も見られた。

事業運営については新たに利用者が1名（不定期利用）加わり32名の利用契約となった。しかし、併用利用者もおり若干の空きがあるため条件が合えば受入れを進めていきたい。見学希望者については事業所を知ってもらうため、また職員の良い刺激にもなり積極的に受け入れを行なった。

組織作りに関して、中・長期的視点での人材育成として法人主導のもと、『人材育成を目的とした人事評価制度（lon1M）の取り組み』へのチャレンジが実質3年目となったが評価や進め方に個人差が見られ標準化出来なかった。また、法人主導で経営会議、管理者会議の実施に加え階層別の運営会議①~③を設定し事業所間の連携・協力に努めたが、もう一步踏み込む事が出来なかった。

地域との関りについては、8月に納涼夏祭り、11月に文化祭が石巻校区で開催され、運営、参加に協力をすることが出来た。また、昨年度に続き事業所前にてぶっくの日と題して、青空マルシェを毎月行なう計画を立て、1年間で9回開催することが出来た。毎回楽しみにして来てくださるご近所さんもお喜び好評を得た。また、地元の保育園に声を掛けて、芋ほりやブルーベリー狩りへの招待を行なった。法人の全体の取組としては、石巻山のゴミ拾いを昨年に続き行った。草の根的な活動であるが協力者も増えてきている。

【喫茶班（Café 奏）】は、一番一般の方と接する機会の多い作業班であり、多くの利用者が接客を出来るように支援を行なった。ただ、混雑時などは、どうしても目が届かないこともあり、対応が不十分になる事もあった。店舗の周知のために Instagram、ブログ等、SNS の活用を積極的に行なった。店舗情報だけでなく、利用者の活動状況も発

信し障害理解のための情報発信にも努めた。メニューについては、季節感を重視した期間限定品の提供、自家栽培でのバタフライピーティーの提供、様々な食材を取り入れ見た目も綺麗な蒸しパンの提供、楽<sup>2</sup>班が丹精込めて作った自然栽培の野菜を使用しているの商品提供など、安全性や話題性にも留意して商品提供に工夫をおこなった。特に、人参を活用したスムージーや、犬や幼児も食べることの出来る無添加人参チップスは好評を得た。また、金田住宅に限ってではあるが無料配達をする等工夫を行い集客、地域貢献をすることが出来た。配達には利用者が出かけ元気にあいさつする等、地域と関わり、やりがいを感じる事が出来た。利用者から店舗にてお客さんからオーダーを取りたいとの要望があり、何とか叶えたいと工夫を行なっているが良い形が中々見つからない。今後もししたら皆がオーダーを取れるようになるのかを模索して行く。

【焼き菓子班（OYATU 工房という）】は、定番の焼き菓子に加えて季節感を大切にしている商品を開発し、定期的な予約販売にも力を入れた。購入しやすい価格設定、柔軟なギフト商品作りも人気があり個人での大量注文も多かった。また、ばくばくぱんと共同して、コラボスクを開発し好評を得ている。他にも売り上げ増のために犬も食べられるクッキーの開発に取り組んでいるが商品化には至っていない。昨年度に続き、自分たちでも野菜から作ってみようと、小さなスペースを借りて野菜（生姜、ハーブ、人参、小松菜、ミニトマト等）を育てて商品に変えていくと言う 6 次化産業的な体験も続ける事が出来た。また、楽<sup>2</sup>班で収穫した自然栽培の野菜も多く取り入れた商品も製造している。他にもラベルを手書きにする等、手間をかけることで利用者の関わる事の出来る作業が増えている。お客さんからは可愛いと評判も良い。また、体力的に、一日立ち作業を行うのが難しい利用者もいる事から、楽<sup>2</sup>班のシール貼りの作業を分けてもらう等、納期が長く負荷の少ない作業も設定した。他にもたんぼぼルームの活用、駐車場などの環境整備、体力づくりなど、生産活動以外の活動にも力を入れ、頑張る時と、ゆっくりする時を上手に設定することが出来た。

【軽作業班（楽<sup>2</sup>）】では農作業（農薬も肥料も使わない自然栽培）を軸とした組立てを行なった。全国的な組織である自然栽培パーティーに参加し、月 2 回の WEB による勉強会に参加して作物の栽培、販売方法、利用者の仕事づくりなどの情報交換を頻繁に行っている。1 歩先を行っている他事業所の職員との交流により知識の向上やモチベーションアップが図られ事業の拡大に貢献できた。主力の作物をブルーベリーやサツマイモとして取り組んだが天候の影響もあり売り上げ目標に届かなかった。干し芋については、資材の高騰に伴い、1 パックあたり昨年度の 450 円から 500 円に値上げしたが、売り上げへの影響はほとんど見られなかった。味には定評があり、販路に困る事はないため栽培技術を向上させて安定供給を行なうことが大切。夏場の暑さは年々厳しくなっている。熱中症対策のため、短時間での作業設定、公用車の常駐とエアコンの稼働、首掛けタイプの保冷剤、ミスト式の大型扇風機の設置、経口補水液の提供など健康面にも配慮し、安心して生産活動ができる環境を整えた。委託作業については、野菜の袋詰めを流れ作業として確立させて生産効率が向上した。多くの利用者に関わる事が出来るのはとても良い作業であるが、集荷、納品の場所が離れており、一部職員の負担が大き

いのが課題となっている。もう一つの委託作業の犬のおやつの袋詰めの作業についても作業を切り分けて流れ作業とすることにより、ほとんどの利用者が関わる事が出来た。野菜の袋詰め作業と並行して行なうことも出来るようになり、作業効率が格段に向上し時間に余裕が出来たため作業が早く終わった時は、健康体操や、ゲームをするなど、余暇活動を充実させることが出来た。午前中に野菜の袋詰めと犬のおやつの委託作業、農作業を行い、午後には体力づくりへ行き、繁忙時は作業、余暇活動を行うという流れができた。職員、利用者ともに数が多いこともあり、職員間の連携不足で設定が十分できないこともあった。外部への周知として SNS の活用としてインスタグラムの投稿を頻繁に行いフォロワー数が増えてきている。

#### 《重点課題に対する取り組み》

##### 1. 運営基盤の強化（運営・管理体制、サービス管理）

職員体制については、経験を積んだ職員が増えてきており安定してきた。課題であった送迎の負担については、朝のみではあるが送迎専門の職員の入職により軽減された。しかし、まだ治負担感は小さくない。楽<sup>2</sup>班については他事業所との兼務職員や時短職員が多く日によって、職員配置が厚いときと薄いときの差がみられるのが課題である。昨年度から始まった兼務については、管理者間でどこにどれだけの人が必要なのか、事前に確認することで柔軟でスムーズな協力を行なうことが出来た。一方で、兼務による勤務の仕方が変わる場合の、モチベーションの維持やコミュニケーションにはまだ課題が残る。法人内の連携について、多機能型事業所童里夢とは、同じ日中活動事業所として送迎等で協力する場面も多い。合同での支援会議などを設定したがさらなる協力体制の構築が必要と感じる場面も見られた。自立生活訓練（短期入所）に関しては、職員不足もあり利用を制限し十分に活用できなかった。

##### 2. 利用者サービスの拡充

法人理念のもと、『どんなに重い障害をもっていても、立派な生産者と認めあえる』ように障害特性に配慮しながら生産活動を中心とした事業運営に努めた。生産活動では、重い障害を持った方でも自信をもって関わられるように作業工程を細分化、単純化する取り組みを進めた。すべての作業が出来るようにするのではなく、得意をいかせるような設定を行い『褒め、励ます』機会を増やせるように工夫した。しかし、得意のみに目を留めすぎて新しいことにチャレンジを促すなど出来る事の幅を拡げる働きは不十分であった。生産活動では創意工夫を行い3班合計での売り上げを増やすことが出来た。年度末には、通常設定していない特別工賃を出すことが出来た。お互いを認めあう活動として、毎日の帰りの会の際に『いいねタイム』は続け、利用者の良かった言動を互いに褒め合う時間を作っている。また、『いいねの木』を作成、食堂に掲示し、『いいねの見える化』を継続して行っているがマンネリ化しつつあり、今後の工夫が必要。クラブ活動（レクリエーション、書道、リズム体操、太鼓、茶道、ダンス、さをり）については本人の希望を重視し過ぎてチャレンジの提案が不十分だった。日帰り旅行については、いつくかの方面の中からを自分で行きたい所を選択する機会も提供し自己選択、自己決定

が行えるように工夫した。法人全体の忘年会については、コロナ禍以降の飲食業界の人材不足が影響し、大人数を受け入れてくれる店舗が見つからず、ボーリング大会を行なった。皆楽しそうだったが、一体感に欠けるなど課題も残った。

### 3. 人材育成/支援力の向上

事業所・職員の役割として、利用者一人ひとりが『その人らしく、より輝いていけるよう』支援する事が根幹であり『自分が当事者や家族だったらどうしてももらいたいのか』という視点を大切にするように会議など様々な場面で共有、確認を行ってきた。職員研修については、リアル&オンラインによるハイブリッド研修が確立され、遠方での研修にも気兼ねなく参加する機会を得ることが出来た。伝達研修については、職員会議の枠の中で行なった事により、時間が十分とれず、中途半端になってしまうことが多かった。法人全体研修では、久しぶりに講師を招いての集合研修を行なうことが出来た。研修後の親睦会も数度設定し職員間の交流促進を行なった。

#### 《 地域活動：事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日/人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
8/22~25	豊橋聾学校 高等部	1	12/5~7	豊橋聾学校 中等部	1

#### 《 事業所外生活支援：自立（律）生活訓練（宿泊体験）の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	6	2	2	6	3
年間延べ人数： 19人												

《 防災計画・安全管理：防災訓練、防災委員会活動 》

防災訓練・学習 実施日			
4/29	防災学習 (不審者対応「イカのおすし」)	10/27	防災学習 (不審者対応「イカのおすし」)
5/23	防災訓練 (地震想定)	11/30	防災訓練 (地震想定)
6/15	防災学習 (風水害における避難)	12/26	防災学習 (交通安全)
7/28	防災訓練 (火災想定)	1/25	防災訓練 (地震想定)
8/18	防災学習 (火災時の避難)	2/27	防災学習 (地震想定防災)
9/23	防災訓練 (地震想定)	3/16	総合防災訓練 (災害対策本部、避難所の開設、口腔ケア、災害時トイレ、発電機、けが人の運びだし) 引き取り訓練

防災委員会活動	
5/19	今年度年間計画、安否確認名簿の作成、近隣利用者在住把握、防災 BCP,感染症 BCP の更新 利用者・職員個人カードの更新
9/22	9/1 のオクレンジャー送受信訓練より、6 月の豪雨災害からの教訓、防災 BCP,感染症 BCP の更新
12/22	災害対策本部の設置シミュレーション、3 月総合防災訓練の内容検討、AED の各事業所への導入検討、防災 BCP,感染症 BCP の更新
2/16	防災 BCP,感染症 BCP の更新 (完成)、AED 来年度導入決定、3 月総合防災訓練の内容の決定、全体研修内での防災学習 (クロスロード)

《 職員研修》

研修の実施状況

月	内容	対象者
4月	自然栽培パーティー勉強会（醤油） 食品衛生講習 他施設見学研修	生活支援員 食品衛生責任者 生活支援員
5月	職場のストレス軽減研修 <b>権利擁護研修</b> （虐待防止・差別解消）	管理者 生活支援員
6月	ビジネスに活かす脳科学 認知症サポーター養成講座 第1回法人全体研修（事例検討会・moso会議） 虐待防止研修	管理者 生活支援員 法人全体 事業所全体
7月	<b>雇用トラブル対策セミナー</b> 生活介護事業所連絡会 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	管理者 生活支援員 生活支援員
8月	キャリアパス研修（リーダーコース） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） さをり織り指導者養成講座	生活支援員 生活支援員 生活支援員
9月	キャリアパス研修（リーダーコース） セルフ療育研修会（インシデント） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 第2回法人全体研修（高齢知的障害者の支援について） 虐待防止研修（虐待防止法の理解）	生活支援員 管理者・生活支援員 生活支援員 法人全体 事業所全体
10月	職場のメンタルヘルスセミナー 食品衛生講習 事務員研修 キャリアパス研修（リーダーコース） 困難事例対応研修 職場環境改善研修 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） <b>虐待防止研修（虐待防止の体制作りについて・支援会議内）</b>	管理者 生活支援員 事務員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 事業所全体
11月	苦情解決責任者研修 職場環境改善研修 困難事例対応研修	管理者 管理者・生活支援員 生活支援員
12月	<b>職場環境改善研修</b> 愛知県施設職員研究大会 第3回法人全体研修（アンコンシャスバイアス）	生活支援員 生活支援員 法人全体
1月	全国生産活動・就労支援部会職員研修会 防災研修 虐待防止研修（セルフチェック検証・職員会議内）	管理者 生活支援員 事業所全体
2月	セルフ共同研修会 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 身体拘束適正化研修	生活支援員 生活支援員 事業所全体
3月	第4回法人全体研修（企画発表・コーチング・防災）	法人全体

《 生産活動 売上金額 》

5年度 生産活動売上状況

月	奏+という 売上金額 (円)	楽2 売上金額 (円)	計 (円)
4	511,987	122,123	634,110
5	396,927	235,027	631,954
6	401,651	147,531	549,182
7	531,198	320,460	851,658
8	538,213	389,654	927,867
9	503,183	158,418	661,601
10	775,341	172,639	947,980
11	571,519	230,944	802,463
12	495,113	237,378	732,491
1	265,348	255,605	520,953
2	439,421	233,898	673,319
3	454,684	135,770	590,454
計	5,854,585	2,667,225	8,551,810

《原材料費率=原材料費/売上金額》

原材料 費合計	1,766,320	222,164	1,988,484
比率	30.2%	8.3%	23.2%

## 【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	合計
男性	5	5	9	1				20
女性	4	2	5	0				12
合計	10	7	14	1				32

※平均障害支援区分：4.8

## 【年齢別人数】

生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	0	8	3	3	2	4	20
女性	0	1	2	1	5	3	12
合計	0	9	5	4	7	7	32

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	33歳3ヶ月	20歳1ヶ月	59歳0ヶ月
女性	41歳8ヶ月	21歳10ヶ月	52歳11ヶ月